

# 企業とNPOとの人材交流について

市民活動促進担当

平成25年9月30日

# これまでの議論の整理

## ○ 人材交流を行うことの意義

- セクター間における人材の流動化は、新たな分野についての知識やノウハウ、マネジメントの学習などを通じた相互の人材育成、事業創造につながる。
- 高校・大学生のNPO等へのインターンや、大学の研究対象となることにより学術機関との人材交流が進むことで、共助社会づくりについての理解が深まる。

特に、企業とNPOとの人材交流については、以下の効果が期待できる。

### < NPO側のメリット >

- ・企業における組織経営や情報発信、マーケティング等のノウハウを習得できる。

### < 企業側のメリット >

- ・社会貢献としての意義やマネジメントの実践訓練などの社員研修としての意義がある。
- ・地域課題を意識した新たな商品開発のヒント等につながり本業におけるパートナーシップを構築できる。

# 人材交流を促進するための方策

これまでの議論では、企業とNPOとの人材交流を促進するための主な方策について、以下が点が挙げられた。

- 企業とNPOとの人材交流を行う上でミスマッチがないように調整する仕組みの構築
- 能力のある人材は、その評価に見合うだけの処遇を得られるようにする仕組みの構築
- 企業とNPOとの人材交流を進めたことによる人材育成やビジネスチャンスの拡大等に関する成功事例の普及

このうち、まずは、3点目の成功事例の普及(成功事例を積み重ね、情報発信していくこと)が必要ではないか

# 成功事例を普及させていくための論点

- 成功事例について、何をどのように発信していくか  
発信内容(案)
  - ・ 交流することとなった理由(きっかけ)
  - ・ 交流に至るまでの手順(プロセス)
  - ・ 交流するまでに必要とした情報(活動実績、資金調達手法等)
  - ・ 人材交流による効果
  - ・ 企業とNPOとの連携による新規事業
  
- 発信手法(案)
  - ・ 企業やNPOは、ホームページ等によるアニュアルレポートや活動報告書等の公開
  - ・ 行政は、成功事例集を取りまとめ公開